

やまもとさくべえたんこうきろくが 山本作兵衛炭坑記録画

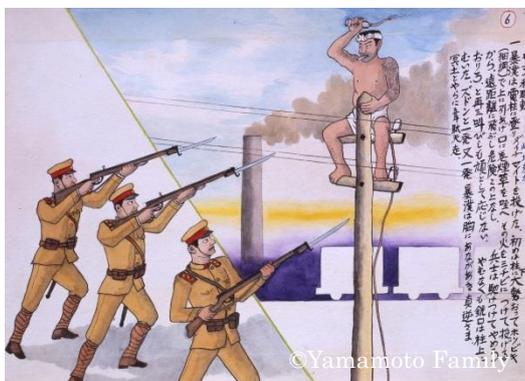
所在地/田川市等

指定/世界の記憶（世界記憶遺産）

県指定有形民俗文化財



「立ち掘り」



「ヤマの米騒動6 電柱からダイナマイトを投げる暴漢」

山本作兵衛の炭坑記録画

(田川市石炭・歴史博物館所蔵)

昭和時代後期、日本では石油を多く使うようになったため石炭を掘ることをやめるようになりました。福岡県でも多くの炭鉱が閉山していきました。そのような時代に、1人の元炭鉱マンが、かつての炭鉱の姿を描いたのが、山本作兵衛炭坑記録画です。

作者の山本作兵衛（1892～1984）は現在の飯塚市で生まれ、14歳の時から50年以上、筑豊の炭鉱で働きました。もともと絵を描くことが好きだった作兵衛は、1955（昭和30）年に最後に勤めていた炭鉱が閉山した後、周りの人々の勧めもあって、自分が働いた炭鉱の姿を伝えるために炭鉱の絵を描くようになります。最初は、墨を使った水墨画、後に絵の具を使った水彩画で、炭鉱のさまざまな風景を描きました。描いたのは、明治時代から大正時代中期頃までの炭鉱の姿です。石炭を掘り出している様子はもちろん、働く人たちの暮らしや楽しみ、炭鉱で起きた事故や事件の絵など、さまざまな場面が描かれています。絵には解説も添えられており、自らが経験した筑豊の炭鉱での暮らしについて、より詳しく伝えています。

資料的価値が高いことから、作兵衛はさまざまな人から求められて多くの絵を描き、その作品は現在も筑豊など各地に残されています。作品の正確な数はわかりませんが、少なくとも1000点は超えるとされています。その中で田川市石炭・歴史博物館にある585点は、日記などの関連資料とともに、ユネスコ（※）の「世界の記憶」（世界記憶遺産）に登録されています。

※ユネスコ：国際連合の教育、科学、文化の発展と推進を目的とした専門機関。

【もっとくわしく調べたい】

○田川市石炭・歴史博物館 福岡県田川市大字伊田 2734 番地 1 Tel 0947-44-5745

※筑豊各地の博物館でも、展示されていることがあります。